

# 2015年度宮城厚生協会新入職員辞令交付式

## 106名の新たな仲間とともに



2015年度辞令交付式

# 厚生協会だより

2015年5月21日  
第 331 号

発行  
公益財団法人  
宮城厚生協会

〒985-0835  
宮城県多賀城市下馬  
二丁目13番7号  
TEL 022-361-1113  
FAX 022-361-1124  
発行人：横山 公樹

4月1日(水)、坂総合ク  
リニック1号館8階会議室に  
おいて「2015年度宮城厚  
生協会新入職員辞令交付式」  
が執り行われました。今年度  
は106名のフレッシュな仲  
間を迎えました。今田隆一理  
事長と新入職員代表の秋田大  
輔医師のあいさつをご紹介します。

### ■理事長あいさつ

宮城厚生協会理事長

今田 隆一

「ご当地では梅の花が満開を  
迎え、もうすぐ桜がほころび  
始めます。1年でもっとも美  
しいこの時期に公益財団法人  
宮城厚生協会に入職されたみ  
なさん。本当におめでとござ  
います。今日の佳き日を迎  
え、みなさんはもちろん、ご  
両親・ご家族のお慶び様が目  
に浮かぶようです。今日のこ  
の晴れがましき、誇り高い気

持ちをせひ、末永く持ち続け  
ていただきたいと願っており  
ます。

長い職業人としての人生に  
は言うまでもなく壁にぶつか  
ることもあるでしょうし、ト  
ンネルに入り込んで出口が見  
えなくなる日もあるでしょ  
う。その時には今日感じた気  
持ち、初心に戻って考えてみ  
てください。きっと新たな希  
望と活力が生まれてくるに違  
いありません。みなさんにと  
っては先輩に当たる私たちも  
みなさんと誓い合った今日の  
思いを胸に心からの支援とサ  
ポートの手を差し伸べていけ  
るものと思います。

### 東日本大震災後の現状、 存分に力発揮を

さて4年前、この塩竈・多  
賀城・利府・松島・七ヶ浜は  
東日本大震災の被災の只中に  
ありました。住民とともに患  
者さん・利用者さん、そして  
職員・友の会員も多く亡くな  
られました。みなさんの中にも  
同じ経験をされた方々がお  
られるでしょう。あの大地震  
から4年が経過しました。こ  
の4年間の年月の重みは小さ

いはずはありません。しかし  
ながら今になっても被災の傷  
跡が癒えたとは到底言えない  
現実があります。たくさん  
の人たちが不自由な仮設住宅に  
住んでおり、一方復興住宅の  
建設も地域の復旧復興もよう  
やく始まったばかりです。ま  
たもとの生業に戻ることもで  
きず、慣れない作業のストレ  
スで心身をいためた方も大勢  
おられます。

みなさんは震災の前後に学  
業に入られた方々と聞いてお  
ります。いわば震災後の取り  
組みの中で専門職や事務職の  
力を磨いてきた方々なのでし  
ょう。今回の入職はその力と  
その真価を発揮する絶好の機  
会を得た、ともいえると思ひ  
ます。地域の方々のために存  
分に働いてください。そして  
患者さんや利用者さんからた  
くさんの感謝の声をいただき、  
それを明日の糧にしてく  
ださい。

### 贈る言葉「チャレンジ」 「勉強」「手と手をつなぐ」

高度高齢化社会となった  
今、医療・介護・福祉の分野  
は大きな岐路に立たされてい

ます。認知症は予備軍といわれる方も含めれば800万人を数えており、しかもこれから20年間は増え続けるといわれています。高齢者だけの世帯は全世界の20%を超えています。その中においてみなさんは日本の未来を担うトップランナーたる役割を期待されています。これからの一日一日が前例のない未知の世界への入り口です。そんな皆さんにはまず「チャレンジ」という言葉を贈りましょう。何事



祝辞を述べる今田理事長

「手と手をつなぐ」これが3つ目の言葉です。  
**4つ目の言葉**  
**「日々の生活」を充実させ、楽しむこと**  
 私の専門分野は認知症診療です。認知症は従来の「医療・介護」から「医療・介護・地域」へとパラダイムシフトが行われており、「生活の視点」

が起ころうとも怯まず「チャレンジ」です。  
 そして「チャレンジ」する勇氣をつくるための「勉強」が2つ目の贈る言葉です。勉強して理屈と筋道がわかれば怖いものなどありません。とは言っても走り続けて後ろを振り向いた時、誰もいないのではやがて心が折れてしまいます。そうならないようにいつも周りと「手をつなぐ、つないでいる」ことが必要です。

おはようございます。研修医の秋田大輔です。本日はこのような式を開催していただき、誠にありがとうございます。宮城厚生協会新入職員を代表いたしまして心よりお礼

謙虚さと、誠実さ持つて仕事と向き合っていきます

医師 秋田 大輔

**新入職員代表 あいさつ**

が重視されるようになりまし  
 た。特に震災後は「日々の生活」を送ることがとても重要なテーマになっている感があります。皆さんに贈る4つ目の言葉は「日々の生活」を充実させ、楽しむことです。  
 私たちもみなさんと共に「手をつないで」「日々、「勉強」し新しいことに「チャレンジ」していきます。何より職員の皆さんが楽しく「日々の生活」が送れるよう法人あげてがんばりたいと思います。共に歩んで参りましょう。



あいさつする秋田大輔医師

を申し上げます。  
 先ほど、理事長の今田先生より、期待と励ましのお言葉をいただき、たいへん身の引き締まる思いであります。  
 医師の道を志した日からのたくさんの出会いと別れを経験しました。特に2011年3月11日の東日本大震災においては数多くの尊い命が一瞬にして奪われ、深い悲しみと無力感を味わいました。それと同時に苦境に立たされた時でもなお、人は助け合い、支え

合うことができるのだという人間の強さ、優しさを感じる事ができました。このような経験を糧に、これからは私たちが「社会人として、一医療者として社会を支えていく番です」  
 今日から私たちはそれぞれの領域で、社会人1年目として患者さまと向き合っていくわけですが、私たちが何年目であるかということは患者さまにとっては無関係です。1年目ということに甘えず、謙虚さと、誠実さを持つて自らの仕事と向き合っていく所存です。

「ご迷惑をおかけする事もあ  
 るかと思いた  
 が、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。以上、簡単ですが、新入職員を代表して感謝と決意の言葉とさせていただきます。



宮城厚生協会は、医療・介護を取り巻く環境の激変に如何に対応するのか、どの方向に向かうのかを共通の認識とするため、全職責者会議を3月29日(日)に開催しました。

2014年期理事会での全職責者会議は昨年に続き二回目、参加対象総数184名中130名(科長、師長、課長以上を対象に)が出席しています。テーマは、「参加者全員が議論に参加し、医療の質を高めた経営の土台づくりの課題を共有し、その後の事業所の取り組みに活かす」です。

### 「宮城厚生協会全職責者会議」開催

テーマ：「参加者全員が議論に参加し、医療の質を高めた経営の土台づくりの課題を共有し、その後の事業所の取り組みに活かす」

## 将来の望ましい姿めざし活発に議論展開!

副専務理事 平賀 秀法

### ロードマップ、グループセッション報告など



午前は、理事長による問題提起、経営課題と必要利益の検証、組織健康度診断結果を受けての理事会方針、フィードバックミーティングを行なっている4病院からの「管理部・職責者会議の問題意識」、県連医師部ベテランジュニアの会の「外部へ責任転嫁し、誰かが問題解決してくれるのを待っている組織風土を直すには」としたロードマップがそれぞれ報告されました。午後は、法人戦略プロジェクトの「激変する情勢と求められる中長期戦略」「マネジ

メント戦略」「人事戦略」について提起され、それぞれグループセッションが設けられ、「希望する姿、将来どのような法人・事業所・組織になりたいか」「地域、患者さんの視点に立ち、それぞれが所属する事業所に対して求めたいこと」「私はどんな教育を受けたいか」をテーマに、職種や事業所を超えた議論が行なわれました。

全体討論では、「これまでいろいろ提案してきたことが常に曖昧にされてきた」「目標設定やチェック項目は必ず検証が必要」「経営危機への対応が遅れている」「法人の使命や目指すべき方向が重要」「これまでの教育制度との整合性が必要」など、忌憚らない意見が上げられ議論を深めました。

### 参加者アンケート 今後の企画に活かす

「参加者の意識は意外に一致していた」「グループワークは効果的であった」との意見がある一方、「問題提起が多く議論が深められない」「前

半と後半の連続性が無い」「グループワークの進め方が不慣れである」「状況認識や意見交換だけではもったいない」など、事前準備の遅れや運営に対し貴重な意見が寄せられ、今後の企画に活かすことになっています。

理事会は、今回の到達を踏まえながら議論を重ね、私たちの使命やめざすべき姿を再定義し、将来の望ましい姿を描くためには何が必要なのか、2025年を展望した組織改革を進めることにしています。



◆次期法人幹部養成の取り組み紹介

# 法人幹部としての成長を期待して

宮城厚生協会教育研修センター長 前谷津温子

厚生協会では各病院事務長、副事務長、事務部長クラスを対象とした次期法人幹部養成を昨年10月から1年間のプログラムで取り組んでいます。

## プログラム内容は

月2回のペースで休日返上、宿題もありハードなプログラムです。内容は、自分自身を知ること始まり、組織とはなにか、マネジメントの

理論や財務等について学習し、実践を元にしたディスカッションを行なっています。

厚生協会は、協会組織に対するアンケートを全職員対象に実施しました。その結果に基づいた組織診断の活用について、各事業所でのフィードバックミーティングの進め方を研修の中で議論しそれぞれで実践しています。現在は各事業所の使命、目指すべき姿などを考え、どう決めていくか、実現するための戦略、ロードマップ作成などを実践・実践しています。

## 厚生協会の使命・ビジョンに沿って

昨年、厚生協会は新役員体制になり、中長期計画策定に向けて法人幹部がレベルアップし、厚生協会組織の変革、経営改善を成功させるため様々な研修に参加し、厚生協会の使命やビジョンを明確に



ディスカッション中



検討結果を発表

◆医療整備室の取り組み紹介

## 法令順守意識を第一優先課題に

厚生協会本部医療整備室課長 庄子 英明



今年3月より協会本部に異動となり、新設された「医療整備室」の担当となった庄子と申します。

## 医療整備室の目的は

「宮城厚生協会における保険診療の適正かつ円滑な運営

しました。次期法人幹部養成プログラム参加者には、実践に即して自分で考え、日ごろの業務態度も含めて専門家の指導を受けて振り返りをするという初めての研修プログラムとeラーニングを用い、自分自身の価値観・欲求・信念・哲学・認識の仕方が変容し、法人幹部として成長することが期待されます。

に合致して診療行為を行ない、それに見合ったカルテ記載等を行なって初めて、医師はじめ看護師、コメディカルスタッフの労働の対価である診療報酬を受け取れる事になります。そのルールに反すると最悪の場合「保険医療機関取り消し」があります。そうしたリスク管理・リスク回避が当方の業務です。

10年前ではあまり問題とはならなかったケースでも、今の社会情勢、世論は厳しくなっていますので、一つ間違った事が重大事件のように扱われ、一気に社会的失墜となるという事も多々あります。マクドナルドがいい例です。

を通じ、リスクの低減とコンプライアンスの向上を図ることにより、宮城厚生協会の安定的な経営存続、発展に寄与する事」(医療整備室業務基準より)です。

## 業務はリスク管理・リスク回避

「ご承知のとおり保険医療機関である限り、保険診療はルール診療であり診療報酬点数表に記載されている算定要件

今、診療データはすべて電子レセプト請求や診療データ提出のもと、審査支払機関や県、厚生労働省にデータ蓄積されていますので、下手な事をすればデータ抽出分析にて、問題医療機関とすぐ把握されかねない状況です。よって当然ですが職員の皆様には法令順守意識を第一優先課題に位置付けていただけると幸いです。

# 「NPT (核不拡散条約)再検討会議ニューヨーク行動」に参加して 核兵器廃絶は世界の体勢



坂総合病院 診療サービス課 成田 和希

## 二つ(学び、伝える)を 抱負に参加

「核廃絶に対する世界的な考えを学ぶ、みなさんの思いを少しでも多くの方に伝えていく」この二つを抱負にし、NPT再検討会議ニューヨーク行動(4月25日～5月2日)に参加してきました。



いざ出陣!

ニューヨークでは国際行動デー・ニューヨーク行動と署名活動、青年交流集会などに参加し、世界的に核廃絶に対する世論が高まっていることを学んできました。

署名活動では、班ごとに活動を行ない、開始直後は言葉の壁や緊張から、署名を集めるのが困難で、全くダメでしたが、班の人の頑張りに感化され、たどたどしい英語で僅から筆でしたが、署名を集めることができました。署名はイギリスやポーランドなどで、現地の人々以外からの協力も多く、核廃絶に対する同じ思いの人が世界中にいることを肌で感じました。



署名活動もがんばりました

## 633万筆以上の署名 を国連に届ける

国際行動デー・ニューヨーク行動では世界中から1万人もの人が参加し633万筆以上の署名が国連に届けられました。各国の代表団が旗や横断幕を持ち、それぞれの方法でアピール行動をしており、参加者が楽しんで活動しているのが印象的でした。2年前の原水禁世界大会で知った、これからの平和に向けてどう活動していくべきか、悲惨さの中で前向きに生きている人間の逞しさを伝えることが大切ということを自分自身、活動を通し感じました。

## 核軍縮は一人ひとりの 行動があつてこそ

NPT再検討会議で日本政府は、核戦力の透明性の確保、核兵器の非人道的影響の議論の下での「核兵器のない世界」に向けた国際社会の結束、解決を訴えています。問題の解決は決して簡単なものではないですが、核軍縮は一人ひとりの行動があつてこそだと思います。核廃絶だけが核兵器への脅威を取り除く唯一の手段であり、そのために自分自身の意思を表明することができる署名や、平和活動の重要性を知りました。

## 自分の言葉で 核廃絶を訴えていく ことが重要

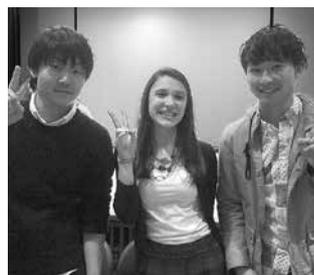
今回の活動の中で核兵器廃絶を切に願う多くの方々との熱い想いや活動に感銘を受けることが多く、核廃絶の実現を心から願うことができ、そして次世代の方に自分の言葉で今後の核廃絶を訴えていくことが重要だと知りました。

医療従事者として多くのことを学ぶことができたNPT再検討会議ニューヨーク行動への参加は私にとって、とても充実した経験となりました。

最後に、NPT再検討会議ニューヨーク行動に参加させていただき、そして、署名、カンパなど多くのご協力、本当にありがとうございました。



ニューヨーク市内をアピール行進



青年交流集会にて右端は日野溪也さん(つばさ薬局泉店)



「いただきます〜す」

さわやか **エッセイ**

## わが家ができるまで、 そして、 わが家になるまで…

ケアステーション郡山 高梨真由美

街中なのに、家を一步出ればそこに緑があり小鳥のさえずりが聞こえる。そんな自然いっぱいの中に建つ〇△□荘というアパートで新婚生活をスタート。

### わが家は傾いている！

ご縁があり、アパート向かいの中古の家の持ち主さんと出会い、別のご縁もあり…いろいろなご縁があり購入となりました。和風の家でも丸太小屋？ 変わった家に「いいね〜」と、どんな生活が待っているか楽しみでした。

ある日、子どもがビー玉を襖の溝でコロコロ遊んでいる時、そのスピードの速いこと速いこと、わが家は傾いている！ 将来的に立て替えを考え、自分たちの望む家をという思いが強く、建築の勉強会を受講し、紙・鉛筆・定規で何度も何度も線を引きました。

当初より薪ストーブを入れることを上げていたのですが、ストーブの位置からわが家の間取りが決まっていきました。薪は実家の山からと考えていましたが、3・11大震災により難しくなり、現在は知人から薪を頂いています。

### 火はこころを優しく包んでくれる

人は火の側に集まりたくなります。火はこころを優しく包んでくれる効果があります。テレビではなく本を読みたくなります。話がしたくなります。体とこころが温まり満たされ眠くなります。

子どもはテレビを見たいようですが、一日1時間のテレビの時間を守り、それ以外は火の側でマンガを見たり、本を読んだりしてすごしています。野球道具の手入れも土間にある火の側なら汚れを気にせずできます。子どもは火の扱いが上手になりました。

### 疲れを癒してくれる場所が家

思春期を迎えた子どもは仕切りのないわが家に少し不服のようでしたが、言ってもどうにもならないと思ったのか、最近はやわくなりました。これがわが家とあきらめたのでしょうか。家の外での疲れを癒してくれる場所が家、また、生きることの基本である食べる・寝るという生活を丁寧に行なう場所という思いがあります。

沢山はできないので、私はちょっとの丁寧をこころがけています。例えば、だしは鯉節で丁寧にとるようにしています。日々の生活の中で、わが家がわが家になってゆくのを実感しています。